

# うつけ通信 vol.4

今回も素晴らしい自然の法則についてお話をしていたきました。最初は驚きますが、昔の人はみんな知っていた事なのかもしれません。

ちょっと面白い話があるんだけどね、平成5年に米がとんでもない不作だったのを覚えていますか？タイ米だのブレンド米だのがどうしたこつしたつて騒いでしょ。

私のところの土を使って農業をやっている友人がいるんですが、例年なんとも無く苗が育つたのにこの平成5年の田植えの時に私の土の稲が一つも動かないんです。隣の田んぼはほとんど大きくなって成育していくわけですよ。私もそのときは初めての体験ですから、どうしたんだと聞かれても回答が無いわけですよ。ただ枯れもしないんです、枯れてしまったように見える、だから真っ赤っかですよ。そして葉っぱもシヤンとしてないですよ、テレーンとしてしまつて水に浮いてるんです。宮本ね、これももう米取れないんじゃないか、って言われましたね。実はその育苗倍土(土)なんて一袋二千円もするんじゃないかですよ、その千円か二千円のもの一袋か二袋で一反の面積の苗作りできるわけです。一反というのは300坪ですよ、300坪の田植えの苗を生育させられるといつことなんです。仮に多い目に見て四千円。私ね、四千円の土買つてもらつてね、二十万の保証しろつて言われたんですよ。もうどうやって夜逃げしようかと思つてましたよ

(笑)。この時、もう、ほんとに怖かつたね。

だけどそれが冬を乗り越えてくると、よそがイモチ病といつて、田にベターつと、まあ人間がベッドに寝ると一緒ですね、横たわつてしまふんです。そして横たわつて乾燥する前に雨が降るものだからほとんど腐つてくるわけですよ、稲が。その時うちの土の稲は立つてるわけですよ、ピンと。それで結局収量は例年とほとんど変わらなかつたんです、その農家がね。でそこで私が単独的に理解したのはですね、稲が台風を予知するとか、そういう異常気象をキャッチしている、予知するといつことなんです。

もちろん、生命力溢れる苗でなければ無理ですよ。証拠に周りの田んぼの苗は全部倒れちゃつたんだからね。だけどこの時はまだ確信はできなかつたんです、一回だけです。ところがこれと同じことを平成9年にまたやるわけですよ。今度は何が起つたかといいますと、気象庁に確認しても証拠が出ますけれど、三重県あたりを立て続けに時期はずれ、つまり6月の末から7月に掛けてアベックの台風が来たんです。この時も平成5年と同じことをやるんです、稲が。まったく微動だにしないんですよ。それで枯れかかつたような格好してるんです。そして今年もそうだったんです。こつこつと3回もやりますとね、稲、つまり植物がそういう異常気象、自分の一生をどのように生育して、どの時期に子孫を、ここで説明加えますとね米というのは別に人間に食つてもらおうと思つて米にならないですよ。彼らは子孫繁栄のために生きてるわけです。その子孫繁栄の、いつどのようにすれば子孫が絶えないか、といつことをキャッチする、といつことを言ひ出すわけですね僕が、確信を持つて農家に。そしてその支配している、つまり左右する時期が育苗の、人間で言つと三歳児、三つ子の魂100までですよ。とこつこつこつこつを言ひわけです。なかなか信用してくれないですけど(笑)。

僕があちこちの席でしゃべつた後でね、

「宮本さん、私は川釣りが好きなんだが、先日川の中の岩魚がえらい太つてるな、釣り上げてみたら何の事は無い、腹へ石をのみこんでいるだけだと、何も太つていないんじゃない。これは誰かに聞いたな、台風がくるのか？これは危ないと早々に川から逃げて家に帰つたんですが案の定その川は氾濫したんです。」

と話した人がいて、つまり岩魚という魚は洪水とか、台風を予知して流されんように石を飲み込んだんですね。これはネズミもそうです。船が沈む、そんなもんだいして(どんな風に)キャッチするのかわかりませんが、大脱走をするんです。あるいは家が火災する前にネズミは今まで天井裏でガサガサしていたのに、なんだか静かだな。ネズミは遠くに避難して行く。人間は気づかずに己のタバコの火で火をつけているんですよ。だけどそんなことをネズミがキャッチする、もう信じがたいですよ、だけど何かを知る。で、これを法則に結び付けようとするのが僕の特徴なんです。

これはね人間のようにしゃべつたりあるいは書いたり出来ない。つまり不自由な生命体ですから岩魚とかネズミよりも植物は。そこに種を落とされると動けないですよ、つまり不自由なんです。その不自由さがゆえにその能力が何万倍、何十億万倍という位に強いといつことが法則であるといつこと。自然の法則なんです。自然に逆らつちゃあいかんです。動物も植物も、そして人間もそれに見合つた素晴らしい力を持つてこの世に生まれて来たんだから。欲を出して人為的に何かをすればするほど悪い方向に進むつて事を世の中に気づいて欲しいもんだね。

お問い合わせ 呼吸大学 0595・24・1147

ゼ口企画大阪支部 0724・67・0644